

istanbul

イスタンブール経済の概要

2017年3月

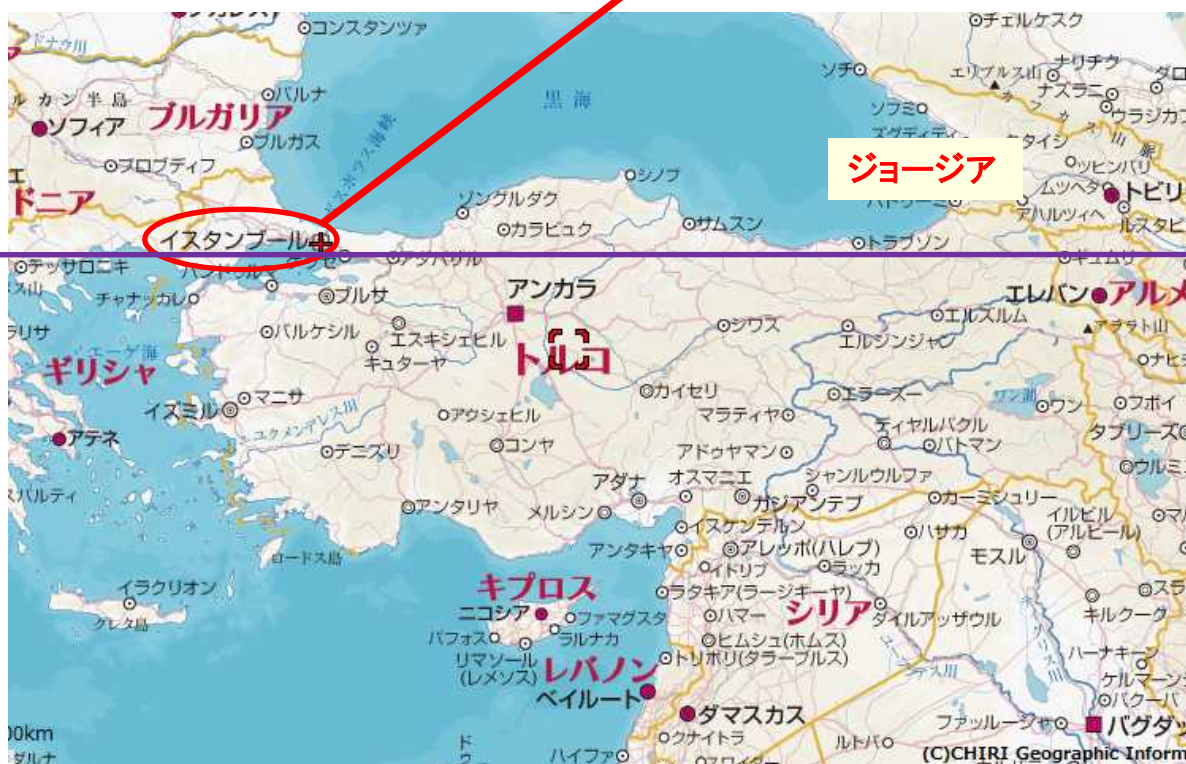
在イスタンブール日本国総領事館



CONSULATE GENERAL OF JAPAN
ISTANBUL

目次:

- 1. イスタンブールの概要
- 2. 交通
- 3. 観光
- 4. イスタンブール経済概要
- 5. 日系企業の進出



1. イスタンブールの概要

- ◆ イスタンブールは、ボスポラス海峡を挟んでアジア大陸とヨーロッパ大陸の二つの大陸にまたがる世界で唯一の都市。
- ◆ 四方をヨーロッパ、中央アジア、中東、ロシアに囲まれ、地政学的に重要な位置にある。
- ◆ ハブ的位置づけ＝4時間以内でヨーロッパ、中東等の主要都市に到達できる。
- ◆ トルコ最大の都市で、人口の20%弱が集中(アンカラは人口第2の都市)。
- ◆ トルコ経済及び文化の中心であり、トルコ企業やメディアの本社の多くがイスタンブールに集中。

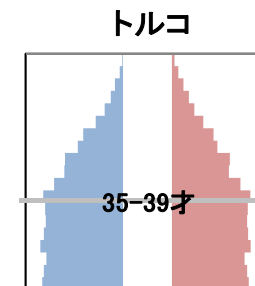
【イスタンブールから主要都市までの所要時間】



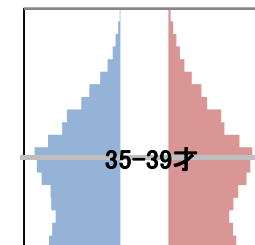
【人口と面積(2016年)】

	人口 (万人)	人口比率 (自国内)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
イスタンブール	1,480	18.5%	5,313 (東京の2.4倍)	2,786
アンカラ	535	6.7%	2,516	2,215
トルコ全体	7,981	100%	785,347	102
東京	1,365	10.8% (対日本)	2,191	6,230 (イスタンブールの2.2倍)

【人口構造(2016年)】



イスタンブール



(青:男性、赤:女性)

出典:トルコ統計庁、総務省統計局、東京都

2. 交通

- ◆ アタテュルク空港は、ハブ空港としての位置づけ。
→ヨーロッパでヒースロー、シャルル＝ドゴールに次ぐ3番目の利用客数。
- ◆ トルコー日本間の直行便は、成田発着が1日1便(現在間引き運行中)。
- ◆ 新たなハブ空港として、世界最大規模の第三空港を建設中(2018年開港予定)
- ◆ イスタンブールはボスポラス海峡を挟んでヨーロッパ大陸及びアジア大陸に広がっているため、海路も交通手段の1つとして利用。
- ◆ 車両数の増加(過去10年間の年平均新車登録台数:25万台)により、イスタンブールの交通渋滞は深刻。 → 世界ワースト3位の渋滞(2015年世界交通渋滞調査、TOM TOM)

【 イスタンブールの空港 】	年間利用客数 (2016年)	年間便数(旅客) (2016年)	滑走路
アタテュルク空港(ヨーロッパ側)	6,011万9,000人	46万6,000便	3本
サビハ・ギョクチェン空港(アジア側)	2,957万8,000人	23万便	1本
第三空港(計画) (ヨーロッパ側黒海沿岸)	1億5,000万人 (想定)	-	6本(計画)

(参考) 成田空港の年間利用客数(2016年): 3905万人

出典: Ministry of Transport, Maritime Affairs and Communications

【 ボスポラス海峡 】

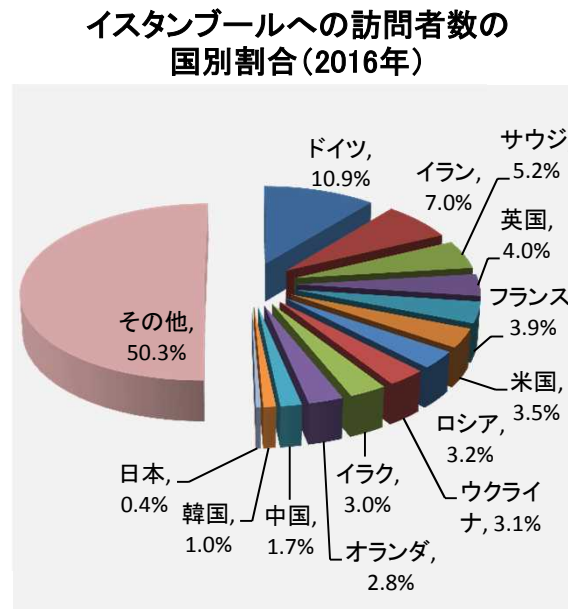
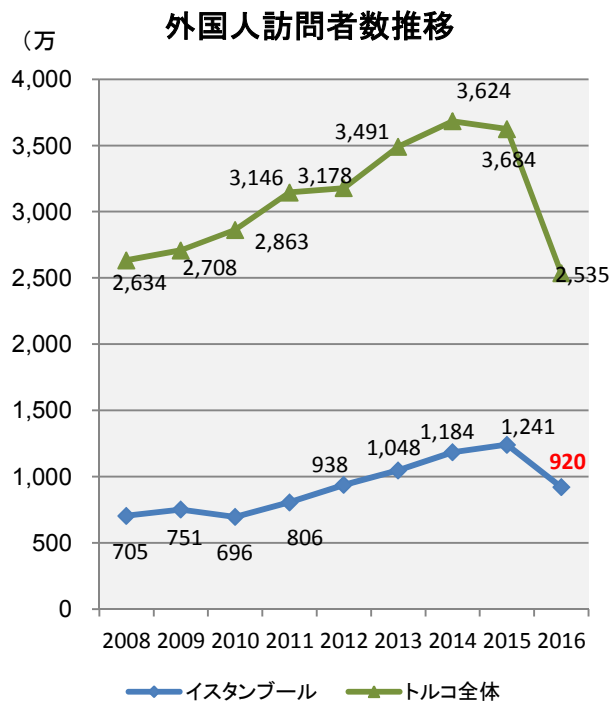
北は黒海、南はマルマラ海。マルマラ海とエーゲ海を繋ぐダーダネルス(チャナッカレ)海峡とあわせて、黒海と地中海を結ぶ海上交通の要衝。2016年の年間航行船舶数は、4万3000隻。

出典: General Directorate Of State Airports Authority - DHMI



3. 観光

- ◆ 2012年以降イスタンブールへの外国人訪問者は全トルコ訪問者数の30%以上を占めている(2016年は36%)。トルコを訪問する日本人の80%以上がイスタンブールを訪問。
- ◆ 2015年以降、治安情勢への不安やロシアの経済制裁によりトルコ全体の訪問者数が減少。2016年は、テロやクーデター未遂事件の影響もあり、前年比30%減と大幅に落ち込んだ。イスタンブールへの訪問客数も前年比26%減となった。
- ◆ 2016年の日本人のイスタンブールへの訪問者数は、前年比58%減。



出典:トルコ文化観光省、Provincial Directorate of Culture and Tourism (Istanbul)

4. イスタンブール経済概要

- ◆ イスタンブールはトルコ全体のGDPの23%を創出。一人当たりのGDPは、トルコ平均の約2倍(参考:トルコの名目GDPは中東でトップ)。
- ◆ 主要産業はサービス業で、産業全体の72%を占める。
- ◆ イスタンブールはトルコ最大の消費地。家計消費支出はトルコ全体の25.3%を占める(2013年-2015年)(首都アンカラを含む西アナトリア地方は11.2%)。
- ◆ 貿易に関しては、輸出入共に、トルコ全体の50%以上を占める。

【主要国の名目GDP】

順位	国	2015年(億ドル)
1	米国	180,367
2	中国	111,816
3	日本	41,242
16	インドネシア	8,590
17	オランダ	7,507
18	トルコ	7,179
20	サウジアラビア	6,460
28	イラン	3,900
31	ア首連	3,703

出典: IMF World Economic Outlook Database, October 2016

(参考)トルコの実質GNP成長率

2015年: 4.0%

2016年第1四半期: 4.8%

第2四半期: 3.1%

第3四半期: -1.8%

【イスタンブールの産業別構成比(2011年)】

	農業	工業	サービス業
イスタンブール	0.2%	27.4%	72.4%
トルコ全体	9%	27.5%	63.5%

※GDPの金額に基づく構成比

出典:トルコ統計庁

【イスタンブールのGDP(2014年)】

トルコの名目GDPに占めるイスタンブールの割合	23%(1,836億ドル)
イスタンブールの1人当たりのGDP	24,867ドル (トルコ平均: 10,381ドル)

出典: The Brooking Institution

【イスタンブールの輸出入(2016年)】

(単位:億ドル)	輸出額	輸入額
イスタンブール	762(53.4%)	1,160(58.4%)
トルコ全体	1,426	1,986

※カッコ内はトルコ全体に占める割合

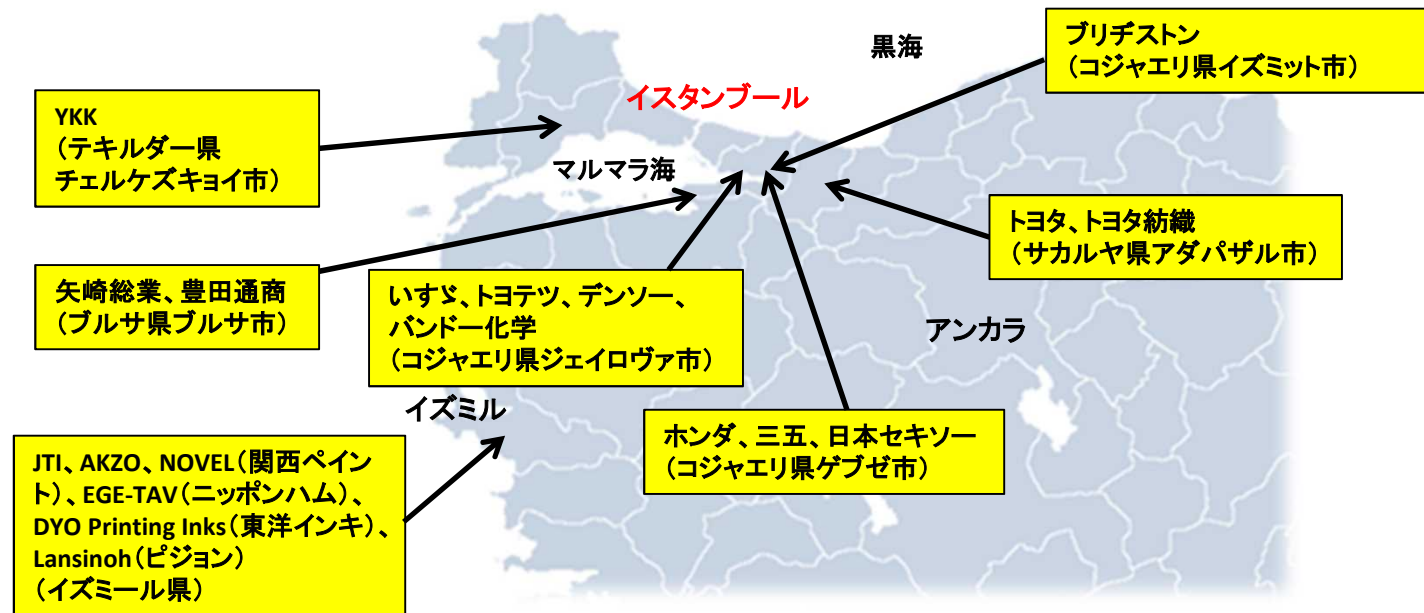
出典:トルコ統計庁

6. 日系企業の進出 ①概要

- ◆ トルコに進出している日系企業の90%近くがイスタンブール及び周辺地域に集中。
- ◆ イスタンブール及び周辺の日系企業は186社(JETRO事務所調査、2016年6月時点)。
イスタンブール日本人会加盟企業数:92社(2016年11月時点)。
- ◆ 商社、金融、製造業、物流、サービス部門等幅広い分野の企業が進出。
- ◆ 中東、北アフリカ、東欧等の周辺地域をカバーする拠点企業も増加。

【 イスタンブール周辺の日系製造業の分布 】

日系製造業はイスタンブール周辺のマルマラ地域に集中している。



6. 日系企業の進出 ②2016年の主なビジネス動向

企業単独での新会社設立や事務所開設に加え、トルコ企業への投資やトルコ企業との合併企業設立の事例もみられる。

3月	ヨシリツ	知育玩具「LaQ(ラキュー)」の販売店を開店。トルコ販売代理店はARMADA Group。
4月	三菱電機	トルコにルームエアコンの開発・生産新会社設立。2018年1月生産開始を目指し、マニサ県に工場建設予定。空調冷熱システム事業のグローバル戦略を担う中核拠点として、事業拡大を図る。
5月	東芝	電力大手ゾルルエナジー社から、トルコ西部に建設予定の中東最大級となるクズレデレ第3地熱発電所向け蒸気タービン・発電機を受注。2014年に続き2件目の地熱発電所向け設備の受注。
6月	日立国際電気	中継車メーカーBCS社を連結子会社化。トルコや中東における放送機器事業の強化を図る。
7月	蝶理	イスタンブールに駐在員事務所開設。
8月	タキイ種苗	種苗大手リト・トフムジュルク社の野菜育種部門を買収。トルコに育種拠点を加えることで、トルコ、中東向けのハウス栽培キュウリ、ナス、ピーマン等の充実を図る。
	ヤンマー	イズミルに現地駐在員事務所を開設、農業機械の販売拡大を見込む。
9月	フジテレビ	イスタンブール支局開設。
10月	IHI	トルコのコンプレッサー大手ダルガキラン・マキナとの合併で圧縮機(コンプレッサー)の工場を新設。2018年稼働、21年度に年間200台程度生産予定。
	関西ペイント	大手建築用塗料メーカー、ポリサンHD傘下のポリサンボヤ社の株式5割の取得に合意。
11月	三井物産	コチ・ホールディング傘下インベントラム社の株を30%取得。投資先育成や技術商用化で協力。
	味の素	トルコ食品大手のオルジェン・グダ・サナイ・ベ・デカレット社の全株式を取得予定(2017年3月)。トルコや中東地域での事業拡大を加速させる。
12月	日立製作所	医療機器販売 Kult・アンド・Kult社の株式75%を取得し、2017年4月1日付で連結子会社にする。トルコ及び周辺地域のヘルスケア事業の強化を図る。